

領 域	専門分野Ⅱ (小児看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	小児看護学概論	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	甲斐 有美子 (元専任教員 13 年)		
回	授業内容	授業方法	
9～10	<ul style="list-style-type: none"> (2) 出生と家族 (3) 子どもの死亡 (4) 不慮の事故 <ul style="list-style-type: none"> i. 小児の事故と事故原因の背景 チャイルドビジョン・チャイルドマウス ii. 事故防止と安全教育 2) 小児をめぐる法律と政策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉施策 (2) 母子保健施策 3) 予防接種 <ul style="list-style-type: none"> (1) 予防接種法 (2) 予防接種の概要と種類 4) 学校保健 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校保健安全法 (2) 健康診断・健康相談 (3) 感染予防 (4) 学校保健活動の推進 (5) 諸統計からみた小児と家族の健康課題 	講義 演習	
11～14	<ul style="list-style-type: none"> 5. 健康な小児の生活 <ul style="list-style-type: none"> 1) 小児の栄養 <ul style="list-style-type: none"> (1) 小児にとっての栄養の意義 小児の栄養の特徴 小児各期の栄養の特徴 食育 2) 新生児の養育と看護 3) 乳幼児の養護と生活指導 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣の獲得 (2) しつけ 4) 小児と遊び <ul style="list-style-type: none"> (1) 遊びの意義と発達 (2) 現在の遊びの変化(社会の中での)インターネット・漫画・携帯電話での遊び・体感ゲームなど (3) 遊びの影響 5) 学童の健康増進とセルフケアの発達 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学童の生活行動 (2) 学童期の健康問題と生活指導 6) 思春期・青年期の小児の生活の特徴 <ul style="list-style-type: none"> (1) 思春期の小児の生活の特徴 	講義 演習	

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	小児看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	甲斐 有美子 (元専任教員 13年)		
回	授業内容	授業方法	
11～14	(2)思春期の健康問題と看護 (3)現在社会の問題(反社会的・逸脱行動) 7)家族への看護 (1)小児各期の家族への看護	講義 演習	
15	6. 社会の中の小児 1)小児と家族 (1)小児にとっての家族の意義と役割 (2)健康な家族 (3)問題のある家族・小児虐待 (4)家族アセスメント 2)現代社会における小児の諸問題 (1)高齢化社会と小児保健 (2)母親の就業と育児 (3)小児を取り巻く環境 (4)社会的不適応と健全育成 (5)現在の遊びの変化(社会の中での)インターネット・漫画・携帯電話での遊び・体感ゲームなど (6)遊びの影響 (7)現在社会の問題(登校拒否・ひきこもり・うつ・自殺、早期妊娠、中絶、性感染症など) 3)災害時の小児と家族 (1)災害による小児への影響とストレス (2)災害時の小児と家族への援助	講義 演習	
授業の進め方 小児の特徴を理解し、小児看護の基本的な考え方を学ぶ。さらに小児の正常な成長発達と各期の特徴、小児保健の動向と小児に関する保健医療について学習する。講義(VTRも使用)と演習で授業を進める。グループワークや、幼児の特徴を理解するために幼児視野疑似体験、チャイルドマウスを用いた演習を行う。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 国民衛生の動向 2020/2021年版(厚生統計協会)			
評価方法 筆記試験、事前課題			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論Ⅰ (小児期にみられる主な健康障害)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち20時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	古賀 寛史(別府医療センター・小児科医長) 後藤 勝政(西別府病院・神経内科部長)		
<p><科目目標> 小児期にみられる主要な健康障害と小児の特徴に応じた看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 小児期にみられる主要な健康障害について理解することができる。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 小児期にみられる主な健康障害 -18時間(講師:古賀 寛史) 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 2) 新生児の疾患 (1) 低出生体重児の特徴、主な疾患 i. 新生児の疾患 ii. 低出生体重児の疾患 iii. 成熟異常	講義	
2	3) 内分泌・代謝系疾患 (1) 新生児マス - スクリーニング (2) 先天代謝異常症 (3) 代謝性疾患 (4) 下垂体疾患 (5) 甲状腺疾患 等 4) 呼吸器疾患 (1) 先天性喘鳴 (2) 上気道の疾患 等	講義	
3	5) 循環器系疾患 (1) 先天性心疾患 (2) 川崎病 (3) 後天性心疾患 等	講義	
4	6) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 (1) アレルギーの分類と発生機序 (2) アレルギー性疾患 (3) 原発性免疫不全症 (4) リウマチ性疾患 等	講義	
5	7) 感染症 (1) ウイルス感染症 等 8) 皮膚・眼・耳鼻咽喉科疾患 (1) 皮膚 (2) 眼 (3) 耳	講義	
6	9) 消化器疾患 (1) 口腔疾患 (2) 頸部嚢胞・瘻孔 (3) 横隔膜の疾患 (4) 食道の疾患 等 10) 血液・造血器疾患 (1) 貧血 (2) 出血性疾患 等 11) 悪性新生物 (1) 造血器腫瘍 (2) 脳腫瘍 等	講義	

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論Ⅰ (小児期にみられる主な健康障害)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち20時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	古賀 寛史 (別府医療センター・小児科医長) 後藤 勝政 (西別府病院・神経内科部長)		
回	授業内容	授業方法	
7	12)腎・泌尿器系および生殖器疾患 (1)泌尿・生殖器の奇形 (2)腎糸球体疾患 (3)腎尿細管疾患 等 13)運動器疾患 (1)先天性股関節脱臼 (2)先天性内反足 (3)先天性筋性斜頸 (4)骨折 等	講義	
8	14)精神疾患 (1)総論 (2)発達障害 (3)神経症性障害、精神病性障害(統合失調症・気分障害) (4)その他の行動上の障害(不登校・反社会的行動・いじめ)	講義	
9	15)事故と外傷(スポーツ外傷も含む) 16)子どもの虐待 (1)虐待に伴う異常の早期発見 等	講義	
10	17)神経疾患 (1)けいれん性疾患 (2)脳性麻痺 (3)筋疾患	-2時間(講師：後藤 勝政) 講義	
授業の進め方 小児期にみられる主な健康障害について、事例を加えながら説明をしていく。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論Ⅰ(健康を障害された小児と家族の理解)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	菅谷 愛美 (別府医療センター・小児診療看護師・看護師22年)		
<p><科目目標> 小児期にみられる主要な健康障害と小児の特徴に応じた看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1.健康障害をもつ小児および家族の心理・社会的側面を理解する。 2.外来における小児の看護を理解する。 3.入院における小児の看護を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1.健康を障害された小児と家族の理解 1)健康を障害された小児と家族の理解 (1)健康障害が小児に及ぼす影響 i.健康障害に対する小児の反応 ii.小児の病気の理解 健康障害が小児の成長・発達に及ぼす影響 iii.各病期にある小児と家族への援助 (2)健康障害が家族に及ぼす影響 2)発達段階別のプレパレーションの活用 3)外来における小児の看護 (1)外来における小児看護の特徴 i.緊急度の把握 トリアージ ii.優先順位の判断 iii.安全の確保(事故防止、感染症対策) (2)外来を訪れる小児と家族の特徴 (3)外来における小児と家族の看護 i.緊張と不安の軽減	講義	
2	4)入院における小児の看護 (1)入院が小児に与える影響 i.病気や入院に伴う小児の反応 (2)入院が同胞・家族に与える影響 (3)入院時の看護 i.計画入院、緊急入院時 ii.プレパレーションの活用 (4)入院各期の看護 i.短期入院、長期入院 (5)発達段階別的小児の看護 (6)退院時の看護 i.入院生活から在宅への移行に向けた支援 ii.多職種との連携と社会資源 5)小児病棟の管理 (1)小児病棟の環境と規則 (2)安全管理	講義	
授業の進め方 視聴覚教材などを用いて講義を進める。健康を障害された小児と家族の理解について、事例を加えながら説明していく。			
テキスト 1.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論(医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期						
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論Ⅰ (低出生体重児の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	宮崎 恵子 (別府医療センター・新生児集中ケア認定看護師・看護師29年)								
<p><科目目標> 小児期にみられる主要な健康障害と小児の特徴に応じた看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. NICUに入院する疾患をもった小児の看護を理解する。 2. NICUに入院する疾患をもった小児への看護技術を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 疾患をもった小児の看護 1) 低出生体重児の看護 (1) 胎外生活への適応の促進 i. 体温の調整(高体温・低体温など) ii. 呼吸の調整(呼吸窮迫症候群；RDS) iii. 循環の調整 iv. 水分・電解質バランスの調整 v. 低血糖の予防 vi. 栄養 vii. 感染予防 (2) 成長・発達の促進 i. 姿勢保持と相互作用の促進(ポジショニング・ホールディング、タッチケア、カンガルーケア) ii. 環境の調整(音環境、光環境、新生児集中治療室) iii. 継続支援 (3) 家族への看護 2) 高ビリルビン血症の小児の看護 (1) 光線療法を行う小児の看護 (2) 交換輸血を行う小児の看護 (3) 家族への看護 </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	内 容	授業方法	1	1. 疾患をもった小児の看護 1) 低出生体重児の看護 (1) 胎外生活への適応の促進 i. 体温の調整(高体温・低体温など) ii. 呼吸の調整(呼吸窮迫症候群；RDS) iii. 循環の調整 iv. 水分・電解質バランスの調整 v. 低血糖の予防 vi. 栄養 vii. 感染予防 (2) 成長・発達の促進 i. 姿勢保持と相互作用の促進(ポジショニング・ホールディング、タッチケア、カンガルーケア) ii. 環境の調整(音環境、光環境、新生児集中治療室) iii. 継続支援 (3) 家族への看護 2) 高ビリルビン血症の小児の看護 (1) 光線療法を行う小児の看護 (2) 交換輸血を行う小児の看護 (3) 家族への看護	講義
回	内 容	授業方法							
1	1. 疾患をもった小児の看護 1) 低出生体重児の看護 (1) 胎外生活への適応の促進 i. 体温の調整(高体温・低体温など) ii. 呼吸の調整(呼吸窮迫症候群；RDS) iii. 循環の調整 iv. 水分・電解質バランスの調整 v. 低血糖の予防 vi. 栄養 vii. 感染予防 (2) 成長・発達の促進 i. 姿勢保持と相互作用の促進(ポジショニング・ホールディング、タッチケア、カンガルーケア) ii. 環境の調整(音環境、光環境、新生児集中治療室) iii. 継続支援 (3) 家族への看護 2) 高ビリルビン血症の小児の看護 (1) 光線療法を行う小児の看護 (2) 交換輸血を行う小児の看護 (3) 家族への看護	講義							

授業の進め方 本単元ではNICUに入院する疾患をもった小児の看護(低出生体重児・高ビリルビン血症)を主に視聴覚教材を用いて事例を加えながら説明する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期						
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論Ⅰ(先天的問題をもつ小児と家族)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	播磨 佑介(西別府病院・副看護師長・看護師14年)								
<p><科目目標> 小児期にみられる主要な健康障害と小児の特徴に応じた看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 先天的問題をもつ小児と家族への看護について理解する</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 先天的問題をもつ小児と家族 1) 先天異常の種類と特徴 2) 小児の発達段階に応じた援助 3) 家族の健康障害への理解と小児の受容に対する看護 4) 小児の養育とケア技術獲得に対する家族の援助 代表疾患：ダウン症候群など </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	内 容	授業方法	1	1. 先天的問題をもつ小児と家族 1) 先天異常の種類と特徴 2) 小児の発達段階に応じた援助 3) 家族の健康障害への理解と小児の受容に対する看護 4) 小児の養育とケア技術獲得に対する家族の援助 代表疾患：ダウン症候群など	講義
回	内 容	授業方法							
1	1. 先天的問題をもつ小児と家族 1) 先天異常の種類と特徴 2) 小児の発達段階に応じた援助 3) 家族の健康障害への理解と小児の受容に対する看護 4) 小児の養育とケア技術獲得に対する家族の援助 代表疾患：ダウン症候群など	講義							
<p>授業の進め方</p> <p>本単元では先天的問題をもつ小児と家族について、家族の健康障害への理解や疾患に対する受容の看護について、主に視聴覚教材を用いて事例を加えながら説明する。</p>									
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)</p>									
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期						
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論Ⅰ (心身障害のある小児と家族)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	播磨 佑介 (西別府病院・副看護師長・看護師14年)								
<p><科目目標> 小児期にみられる主要な健康障害と小児の特徴に応じた看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 心身障害のある小児と家族の看護について理解する。 2. 心身障害のある小児と家族の日常生活への支援と社会資源の活用について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 心身障害のある小児と家族 1) 心身障害の種類と定義 2) 発達障害 3) 心身障害の受容 4) 経管栄養法 5) 小児と家族の日常生活への支援と社会資源の活用 (1) 療育施設における看護 (2) 家庭療育への援助 (3) 家族(母親)への援助 代表疾患：脳性麻痺など </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	内 容	授業方法	1	1. 心身障害のある小児と家族 1) 心身障害の種類と定義 2) 発達障害 3) 心身障害の受容 4) 経管栄養法 5) 小児と家族の日常生活への支援と社会資源の活用 (1) 療育施設における看護 (2) 家庭療育への援助 (3) 家族(母親)への援助 代表疾患：脳性麻痺など	講義
回	内 容	授業方法							
1	1. 心身障害のある小児と家族 1) 心身障害の種類と定義 2) 発達障害 3) 心身障害の受容 4) 経管栄養法 5) 小児と家族の日常生活への支援と社会資源の活用 (1) 療育施設における看護 (2) 家庭療育への援助 (3) 家族(母親)への援助 代表疾患：脳性麻痺など	講義							
<p>授業の進め方 心身障害のある小児と家族の看護について、視聴覚教材を用い、事例を加えながら説明する。</p>									
<p>テキスト</p> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)									
<p>評価方法 筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科目名 (単元名)	小児看護方法論Ⅱ (看護過程の展開)	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 23年)		

<科目目標>

小児看護学概論・小児看護方法論Ⅰ・小児看護方法論演習で学んだ知識や技術を統合し、事例を通して健康障害をもつ小児の看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 小児看護学における看護過程の特徴 2. ネフローゼ症候群の患児の看護について 【事例】学童期 男児 ネフローゼ症候群 1) 情報収集の視点 (1) 情報収集の方法	講義 演習
2	2) 情報の分析 (1) 健康障がいと小児の身体的特徴の関連 i. ネフローゼ症候群の病態・成り行きと治療、看護 ii. ネフローゼ症候群の病期に応じた援助 iii. ステロイド治療と副作用 iv. 安静療法と治療が患児に及ぼす影響	講義 演習
3～4	(2) 健康障害が発達段階に及ぼす影響 i. 理論の活用：発達課題論など (3) 小児の健康障害が家族に及ぼす影響 i. 理論の活用：家族理論 (4) 病気による小児と家族の生活の変化 3) 看護診断	講義 演習
5	4) 関連図の完成 5) 必要な看護診断とその優先順位	講義 演習
6～7	6) 具体的計画について (1) 成長発達段階を考慮した具体策 (2) 家族を含めた援助 (3) 養護が必要な児への看護	講義 演習
8	7) 評価	講義 演習

授業の進め方

小児看護学実習記録(1)～(4)、実習記録(4)、実習記録(8)を用い、事例の患児の看護過程を展開していく。具体的計画立案は、グループで演習を行う。各グループで発表を行い、学びの共有を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)
3. NANDA-I 看護診断 定義と分類<2018/2020>(医学書院)
4. 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図(医学書院)

評価方法

1. レポート評価
2. 講義参加状況 (初回講義時に詳細は説明)

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期												
科 目 名	小児看護方法論演習 (疾病の経過に応じた看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち12時間												
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	平山 遥 (別府医療センター・看護師8年) 平下 理香 (大分県立病院・看護師長)														
<p><科目目標> 小児各期に発生頻度が高い症状等の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害を持つ小児の看護に必要な看護技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある小児と家族の看護が理解できる。 慢性期にある小児と家族の看護が理解できる。 手術を要する小児の健康障害を理解することができる。 周手術期にある小児と家族への看護を理解することができる。 回復期にある小児と家族への看護を理解することができる。 終末期にある小児と家族への看護を理解することができる。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護-4時間 (講師：平山 遥) 1) 急性期にある小児と家族の看護 (1) 急性期にある小児と家族の特徴 (2) 急性期にある小児と家族の看護 *代表疾患：喘息、川崎病</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 慢性期にある小児と家族の看護 (講師：平山 遥) (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 i. 病気の時間的経緯と急性増悪 ii. 小児慢性特定疾患治療研究事業 *代表例：糖尿病 (2) 慢性期にある小児と家族の特徴と看護 i. 病気による小児と家族の生活の変化 ii. 小児の発達とセルフケア獲得への援助 iii. 地域との連携・調整 iv. 学習支援と復学支援</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3) 周手術期にある小児と家族 -8時間 (講師：平下 理香) (1) 小児期の周手術期の特徴 i. 小児期の手術の特徴 ①手術適応と特徴 ②緊急手術 ③計画手術 ④日帰り手術 ii. 手術を受ける小児と家族の反応 ①小児と家族の準備状態の把握 ②プレパレーション</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護-4時間 (講師：平山 遥) 1) 急性期にある小児と家族の看護 (1) 急性期にある小児と家族の特徴 (2) 急性期にある小児と家族の看護 *代表疾患：喘息、川崎病	講義	2	2) 慢性期にある小児と家族の看護 (講師：平山 遥) (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 i. 病気の時間的経緯と急性増悪 ii. 小児慢性特定疾患治療研究事業 *代表例：糖尿病 (2) 慢性期にある小児と家族の特徴と看護 i. 病気による小児と家族の生活の変化 ii. 小児の発達とセルフケア獲得への援助 iii. 地域との連携・調整 iv. 学習支援と復学支援	講義	3	3) 周手術期にある小児と家族 -8時間 (講師：平下 理香) (1) 小児期の周手術期の特徴 i. 小児期の手術の特徴 ①手術適応と特徴 ②緊急手術 ③計画手術 ④日帰り手術 ii. 手術を受ける小児と家族の反応 ①小児と家族の準備状態の把握 ②プレパレーション	講義
回	授業内容	授業方法													
1	1. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護-4時間 (講師：平山 遥) 1) 急性期にある小児と家族の看護 (1) 急性期にある小児と家族の特徴 (2) 急性期にある小児と家族の看護 *代表疾患：喘息、川崎病	講義													
2	2) 慢性期にある小児と家族の看護 (講師：平山 遥) (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 i. 病気の時間的経緯と急性増悪 ii. 小児慢性特定疾患治療研究事業 *代表例：糖尿病 (2) 慢性期にある小児と家族の特徴と看護 i. 病気による小児と家族の生活の変化 ii. 小児の発達とセルフケア獲得への援助 iii. 地域との連携・調整 iv. 学習支援と復学支援	講義													
3	3) 周手術期にある小児と家族 -8時間 (講師：平下 理香) (1) 小児期の周手術期の特徴 i. 小児期の手術の特徴 ①手術適応と特徴 ②緊急手術 ③計画手術 ④日帰り手術 ii. 手術を受ける小児と家族の反応 ①小児と家族の準備状態の把握 ②プレパレーション	講義													

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	小児看護方法論演習 (疾病の経過に応じた看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち12時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	平山 遥 (別府医療センター・看護師8年) 平下 理香 (大分県立病院・看護師長)		
回	授業内容	授業方法	
4～5	(2) 小児と家族の看護 i. 術前の看護(術前準備) ii. 手術室及び回復室での看護 iii. 術後急性期の看護 ① 手術後の身体状態のアセスメントと看護 ② 小児の安全・安楽への看護と家族の援助 iv. 術後回復期の看護 ① 退院に受けての看護 ② 回復期にある小児と家族の特徴と看護 (3) 手術を要する健康障害と時期 *代表疾患：先天性疾患 (ファロー四徴症、食道閉鎖症、ヒルシュスプリング病、肥厚性幽門狭窄症など)	講義	
6	4) 終末期にある小児と家族の看護 (講師：平下 理香) (1) 終末期にある小児と家族の特徴と看護 i. 小児及び家族の心理(兄弟の心理も含む)と援助 (2) 小児のターミナルケア i. 小児への病気の説明(死についての小児のとらえ方) ii. 緩和ケア iii. 死に直面した小児及び家族への看護(兄弟への看護も含む) *代表疾患：急性白血病	講義	
授業の進め方 疾病の経過に応じた看護について、視聴覚教材を用い、事例を加えながら説明する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論演習 (小児の症状の観察・看護技術)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち12時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	管谷 愛美 (別府医療センター・小児診療看護師・看護師22年)		
<p><科目目標> 小児各期に発生頻度が高い症状等の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害を持つ小児の看護に必要な看護技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期に発生頻度が高い症状の発生因子とメカニズムを理解する 2. 症状出現時の看護について理解する 3. 小児に必要な看護技術を理解する 4. 小児に必要な看護技術を習得する <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 小児の症状の観察と看護 1) 主な症状と看護 (1) 不機嫌・啼泣 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 嘔吐 (5) 下痢 (6) 脱水 (7) けいれん (8) 意識障害 (9) 発疹	講義	
2	2. 小児看護に必要な看護技術 1) コミュニケーション (1) 発達に応じたプレパレーション 2) バイタルサイン測定 3) 身体的アセスメント (1) 一般的外見 (活気、機嫌など) (2) 瞳孔の対光反射の確認 (3) 視力検査 (4) 外耳道・鼓膜の観察 (5) 胸郭の打診 (6) 呼吸音の聴診 (7) 頸動脈の視診・触診・聴診 (8) 心尖部の視診・触診・聴診 (9) 心音と心雑音の聴診 (10) 腹部の視診 (11) 腹部の聴診 (12) 腹部の打診 (13) 腹部の触診 など	講義	
3	4) 与薬 (1) 乳首、スポイトによる方法 5) 採尿 (1) 採尿パックの使用方法	講義	

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論演習 (小児の症状の観察・看護技術)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち12時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	菅谷 愛美 (別府医療センター・小児診療看護師・看護師22年)		
回	授業内容	授業方法	
4	6)注射 (1)注射施行時の固定 7)輸液療法 (1)輸液時の固定 (2)小児用輸液セット 8)採血 (1)採血時の固定 (2)刺入部の固定法 9)穿刺 (1)骨髄穿刺 (2)腰椎穿刺 i. 穿刺時の固定 10)体位の固定 (1)固定の種類、方法	デモストレーション 講義 演習	
5～6	11)バイタルサイン測定 (1)直腸検温 (2)心拍測定 (3)血圧測定(マンシエットの幅) 12)身体計測 (1)身長 (2)体重 (3)胸囲・腹囲 (4)頭囲・大泉門	講義 演習	
<p>授業の進め方</p> <p>小児各期に発生頻度が高い症状の発生因子とメカニズムを理解し、小児の援助のあり方と小児看護に必要な看護技術を学習する。この単元では小児の症状に対する観察の視点や看護を学習する。また小児看護に必要な看護技術を、演習を通して学ぶ。演習では、バイタルサインベビーを用いてバイタルサイン測定、身体測定を行う。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年後期									
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論演習 (様々な状況にある 小児と家族への援助)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平山 遥 (別府医療センター・看護師8年)											
<p><科目目標> 小児各期に発生頻度が高い症状等の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害を持つ小児の看護に必要な看護技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動制限が必要な小児と家族への看護を理解できる 2. 隔離が必要な小児と家族への看護を理解できる 3. 痛みのある小児と家族への看護を理解できる <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 様々な状況にある小児と家族への援助 1) 活動制限が必要な小児と家族の看護 (1) 活動制限の目的 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 活動制限中の小児と家族の看護 i. 小児の発達段階に応じた援助 ii. 小児の日常生活にかかわる家族の援助</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 隔離が必要な小児と家族 (1) 隔離の目的・方法 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 隔離が必要な小児と家族の看護 i. 小児の身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の援助 ii. 家族の面会や付き添いにおける援助 *代表疾患：麻疹、水痘症 3) 痛みのある小児と家族 (1) 小児の痛みの受け止め方 (2) 痛みの表現方法 (3) 痛みの客観的評価(アセスメント) (4) 痛み緩和への援助</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 様々な状況にある小児と家族への援助 1) 活動制限が必要な小児と家族の看護 (1) 活動制限の目的 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 活動制限中の小児と家族の看護 i. 小児の発達段階に応じた援助 ii. 小児の日常生活にかかわる家族の援助	講義	2	2) 隔離が必要な小児と家族 (1) 隔離の目的・方法 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 隔離が必要な小児と家族の看護 i. 小児の身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の援助 ii. 家族の面会や付き添いにおける援助 *代表疾患：麻疹、水痘症 3) 痛みのある小児と家族 (1) 小児の痛みの受け止め方 (2) 痛みの表現方法 (3) 痛みの客観的評価(アセスメント) (4) 痛み緩和への援助	講義
回	授業内容	授業方法										
1	1. 様々な状況にある小児と家族への援助 1) 活動制限が必要な小児と家族の看護 (1) 活動制限の目的 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 活動制限中の小児と家族の看護 i. 小児の発達段階に応じた援助 ii. 小児の日常生活にかかわる家族の援助	講義										
2	2) 隔離が必要な小児と家族 (1) 隔離の目的・方法 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 隔離が必要な小児と家族の看護 i. 小児の身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の援助 ii. 家族の面会や付き添いにおける援助 *代表疾患：麻疹、水痘症 3) 痛みのある小児と家族 (1) 小児の痛みの受け止め方 (2) 痛みの表現方法 (3) 痛みの客観的評価(アセスメント) (4) 痛み緩和への援助	講義										
<p>授業の進め方 この単元では特に疾患により活動制限や隔離が必要になる小児と家族への看護、小児の痛みについての受け止め方や評価方法を、視聴覚教材と具体的事例を用い説明する。</p>												
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院) 												
<p>評価方法 筆記試験</p>												

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年後期						
科 目 名 (単元名)	小児看護方法論演習 (救急処置と緊急時の対応)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	平山 遥 (別府医療センター・看護師8年)								
<p><科目目標> 小児各期に発生頻度が高い症状等の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害を持つ小児の看護に必要な看護技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 小児の救急処置と緊急時の看護が理解できる。 2. 救急処置を受ける小児と家族へ看護が理解できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 救急処置と緊急時の看護 1) 小児の事故 (1) 起こりやすい理由 2) 救急処置 (1) 誤飲物質と処置 i. 化学物質と誤飲 ii. 固形物の誤飲 (2) 溺水と処置 (3) 出血：鼻出血 (4) 熱傷の特徴、重症度と処置 (5) 小児の一次救命処置 (6) 乳幼児・小児の意識レベル (7) 吸引・酸素療法 3) 救急処置を受ける小児と家族の不安の緩和 </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 救急処置と緊急時の看護 1) 小児の事故 (1) 起こりやすい理由 2) 救急処置 (1) 誤飲物質と処置 i. 化学物質と誤飲 ii. 固形物の誤飲 (2) 溺水と処置 (3) 出血：鼻出血 (4) 熱傷の特徴、重症度と処置 (5) 小児の一次救命処置 (6) 乳幼児・小児の意識レベル (7) 吸引・酸素療法 3) 救急処置を受ける小児と家族の不安の緩和	講義
回	授業内容	授業方法							
1	1. 救急処置と緊急時の看護 1) 小児の事故 (1) 起こりやすい理由 2) 救急処置 (1) 誤飲物質と処置 i. 化学物質と誤飲 ii. 固形物の誤飲 (2) 溺水と処置 (3) 出血：鼻出血 (4) 熱傷の特徴、重症度と処置 (5) 小児の一次救命処置 (6) 乳幼児・小児の意識レベル (7) 吸引・酸素療法 3) 救急処置を受ける小児と家族の不安の緩和	講義							
<p>授業の進め方 救急処置と緊急時の対応について、視聴覚教材をもとに事例を加えながら説明する。</p>									
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)</p>									
<p>評価方法 筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ（小児看護学）	開講時期	2年後期 3年前期・後期
科 目 名	小児看護学実習	単 位 数 (時間数)	2単位 (90時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・24年)		
<p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の身体的・精神的・社会的発達を理解できる。 2. 健康な小児の成長発達を促す保育方法を理解できる。 3. 健康障がいをもつ小児および家族の特徴について理解できる。 4. 健康障がいをもつ小児および家族の個別性に応じた看護が実施できる。 5. 小児看護学実習を通して、小児観を深めることができる。 6. 保健・医療チームとしての自覚を持ち、専門職業人として責任ある行動をとることができる。 <p><学習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体的・精神的・社会的特徴 2. 小児の発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得の方法 3. 小児の発達段階に応じた遊び 4. 小児の安全・健康を守るための方法 5. 患児の疾患や治療による健康障がいからの身体的変化 6. 患児・家族の心理的・社会的特徴 7. 健康障がい患児および家族に及ぼす影響 8. 患児の健康障がいを考慮し発達段階に応じた日常生活援助の実施 9. 患児に行われる治療・検査・処置の援助の実施 10. 小児の事故に対する看護師の責任の自覚と事故防止策 11. 患児の家族の身体的・精神的・社会的援助 12. 小児看護における子どもの権利の尊重や家族のありようの理解と、自己の小児観の探求。 <p>※詳細は小児看護学実習実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論(医学書院) 3. 発達段階からみた小児看護過程 病態関連図(医学書院) 4. NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類(2018-2020) (医学書院) 5. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院) 6. よくわかる中範囲理論 第2版(学研) 7. 看護のための臨床病態学(南山堂) 			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第 12 条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（小児看護学）	開講時期	2年後期 3年前期・後期
科 目 名	小児看護学実習	単 位 数 (時間数)	2単位 (90時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・24年）		
<p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の身体的・精神的・社会的発達を理解できる。 2. 健康な小児の成長発達を促す保育方法を理解できる。 3. 健康障がいをもつ小児および家族の特徴について理解できる。 4. 健康障がいをもつ小児および家族の個別性に応じた看護が実施できる。 5. 小児看護学実習を通して、小児観を深めることができる。 6. 保健・医療チームとしての自覚を持ち、専門職業人として責任ある行動をとることができる。 <p><学習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体的・精神的・社会的特徴 2. 小児の発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得の方法 3. 小児の発達段階に応じた遊び 4. 小児の安全・健康を守るための方法 5. 患児の疾患や治療による健康障がいからの身体的変化 6. 患児・家族の心理的・社会的特徴 7. 健康障がい患児および家族に及ぼす影響 8. 患児の健康障がいを考慮し発達段階に応じた日常生活援助の実施 9. 患児に行われる治療・検査・処置の援助の実施 10. 小児の事故に対する看護師の責任の自覚と事故防止策 11. 患児の家族の身体的・精神的・社会的援助 12. 小児看護における子どもの権利の尊重や家族のありようの理解と、自己の小児観の探求。 <p>※詳細は小児看護学実習実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論(医学書院) 3. 発達段階からみた小児看護過程 病態関連図(医学書院) 4. NANDA-I 看護診断 定義と分類(2018-2020) (医学書院) 5. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院) 6. よくわかる中範囲理論 第2版(学研) 7. 看護のための臨床病態学(南山堂) 			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第 12 条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			